

## リフレクションの記述に関する指導の前後における 教職 e ポートフォリオの記述内容の比較分析の試み

### A Pilot Study on Comparison of Description of Professional e-Portfolios before and after Guidance on Reflective Description

谷塚 光典<sup>\*1,\*2</sup>, 森下 孟<sup>\*1</sup>, 東原 義訓<sup>\*1</sup>, 喜多 敏博<sup>\*2</sup>, 戸田 真志<sup>\*2</sup>, 鈴木 克明<sup>\*2</sup>  
Mitsunori YATSUKA<sup>\*1,\*2</sup>, Takeshi MORISHITA<sup>\*1</sup>, Yoshinori HIGASHIBARA<sup>\*1</sup>,  
Toshihiro KITA<sup>\*2</sup>, Masashi TODA<sup>\*2</sup>, Katsuaki SUZUKI<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup>信州大学学術研究院教育学系

<sup>\*1</sup>Institute of Education, Shinshu University

<sup>\*2</sup>熊本大学教授システム学研究センター

<sup>\*2</sup>Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University

Email: yatsuka@shinshu-u.ac.jp

あらまし：本研究では、教員養成初期段階にある教育学部1年次生を対象に、附属学校園における活動についてのリフレクションの記述に関する指導を行い、その効果を明らかにするための手がかりを得ることを目的とした。その結果、活動記録を実際に見ながら記録の書き方とふり返り方の指導を行うことにより、指導以前の記述と指導後の記述が量的・質的に変化していることが明らかになった。

キーワード：eポートフォリオ、履修カルテ、教員養成、教育実習、教師教育

#### 1. はじめに

信州大学教育学部では、「臨床の知」をスローガンに、入学時から卒業時までのさまざまな臨床経験科目を体系的にカリキュラムに整備しつつ、体験的な学びと学問的な学びを往還する教育を重視している。そして、教職 e ポートフォリオ（履修カルテ）の継続的な作成を通して、自己の教育経験を研究的にリフレクションし、次の活動への課題を見いだすこととしている<sup>1)</sup>。これまでの研究では、自己総合評価、観点別自己評価、学生間の相互コメントのそれぞれの記述に特定のキーワードがどれくらい含まれているかを学年別に分析することによって、学生の成長過程の様相を明らかにしてきた<sup>2)4)</sup>。また、学生自身も、相互コメントによって、自分が気づかなかったことを気づく契機を感じていたり、他者からのコメントに反発・反論するのではなく素直に受け止めて自己の成長につなげようとしていたりしているという効果が明らかになってきている<sup>5)</sup>。しかしながら、教職 e ポートフォリオの作成やリフレクションの記述に関する指導が定期的にかつ十分に行われているとは必ずしも言いがたい状況であった。

そこで、本研究では、教員養成初期段階にある教育学部1年次生を対象に、附属学校園における活動についてのリフレクションの記述に関する指導を行い、その効果を明らかにするための手がかりを得ることを目的とする。

#### 2. 研究の対象と方法

##### 2.1 研究の対象

本研究の対象となる学生は、2016年度に信州大学教育学部に入學し、2016年度に「教育臨床入門」を

受講している学校教育教員養成課程の1年次生 250名である。

「教育臨床入門」は、1年次生の必修科目であり、教育職員免許法施行規則第6条第二欄の「教職の意義等に関する科目」(1) 教職の意義及び教員の役割、(2) 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）、(3) 進路選択に資する各種の機会の提供等）として開講されている。ねらいとして、「教職の意義及び教員の役割について理解し、自分のめざす教師像を描き始める。」「子どもの学びを観察する意義とその方法および留意点を理解し、授業参観記録のとり方や学習指導案の読み方など教育実習のための基礎的な能力を身につける。」等を挙げている。

##### 2.2 研究の方法

「教育臨床入門」の履修により、学生は、信州大学教育学部附属松本学校園（以下、「附属学校園」）における教育活動に日常的・継続的に参加することを中心に、具体的な学びの場（教室等）における観察実習や参加実習を通して、観察者である自分のものの見方・考え方を鍛えていくことになる。附属学校園における教育活動に年間8～10回程度参加することになるが、参加の都度、信州大学の全学 e-Learning システムである「eALPS」に、活動記録を蓄積していく。

2016年10月25日（火）の「教育臨床入門」の授業時に、学生が持参したノートPC、タブレット、スマートフォン等を用いて eALPS にアクセスし、Moodleの小テスト機能を用いて記入された「附属学校園活動記録」を見て、記録の書き方とふり返り方の指導を行った。そこで、この日より前の記述とこの日より後の記述を量的・質的に比較することによって、リフレクションの記述指導の効果を検証する

こととした。

### 3. リフレクションの記述指導の効果

#### 3.1 記述量の変化

「附属学校園活動記録」に記入された活動記録は計 2,328 件あった。このうち、リフレクションの記述に関する指導の前に記入されたものが 1,292 件、指導の後に記入されたものが 1,036 件であった。

自由記述で記入する回答のうち、「附属学校園で行った「活動の概要」を箇条書きで書きましよう。」の平均文字数は、指導前の記入が 30.5 文字であったことに対して、指導後の記入は 22.6 文字であった。また、「附属学校園で行った「活動から学んだこと」を書きましよう。」の平均文字数は、指導前の記入が 163.4 文字であったことに対して、指導後の記入は 175.6 文字であった。

このことから、「活動の概要」の記述については文字数が減っているものの、「活動から学んだこと」の記述は若干増加していることがわかった。

なお、ここでの文字数とは、Microsoft Excel の関数で文字列の長さ（文字数）を返す「LEN」による。

#### 3.2 記述内容の変化

2016 年 10 月 25 日（火）の「教育臨床入門」の授業時には、「附属学校園活動記録」のポイントとして、次の 3 点を指導した。

- 具体的な活動（子どもや教師の姿、様子、ノート、発言）から、「学んだこと」を書く
- 「今回のねらい・注目点」を決めて、それについてのふり返りを書く
- 次回の課題を明確に持つ

その結果、ある学生が附属幼稚園での日常保育に参加したときの「活動から学んだこと」の記述が、次のように記述されるようになった。

##### <指導前>

AさんとBさん、両方から遊ぼうと言われた時に、例えば先に声をかけてくれた方から遊んで、その後、もう片方と遊ぶというように、いっぺんにではなく、順番に遊んであげることが大切だということを学びました。

##### <指導後>

「子どもと遊ぶ時に何を気を付けるか」というのをねらいとして、AさんとBさんの両方から遊ぼうといわれたときに、いっぺんに遊ぶのではなく、約束をして順番に遊んであげることが大切だと学べた。また、当たり前のことではあるけれど、約束をしたら必ず守ることも大切だと学べました。

子どもが遊んでいるときに、その子の遊びを妨げるような行動をしないように、周りを見てその子が次にどんな行動をとるかなど、想定していくことも大切だと思いました。

このように、実習に臨む際の各自のねらいを明確

にすることによって、そのねらいの達成状況とそれに関わるエピソードが記述されるようになっている。

### 4. おわりに

本研究では、教員養成初期段階にある教育学部 1 年次生を対象に、附属学校園における活動についてのリフレクションの記述に関する指導を行い、その効果を明らかにするための手がかりを得ることを目的とした。その結果、活動記録を実際に見ながら記録の書き方とふり返り方の指導を行うことによって、指導以前の記述と指導後の記述が量的・質的に変化していることが明らかになった。

今後の課題としては、記述内容の詳細な分析を行うことによって、リフレクションの記述に関する指導効果を明らかにすることと合わせて、より効果的な指導方法を検討していく必要がある。

### 付記

本研究の一部は、JSPS 科学研究費・基盤研究(C) 課題番号 25350325「教職キャリア志向向上と目指す教員像構築のための教職 e ポートフォリオの活用」(研究代表者：谷塚光典)、及び同・基盤研究(C) 課題番号 16K01107「協働的問題解決のための省察を促進する教職 e ポートフォリオシステムの開発」(研究代表者：谷塚光典) の助成を受けたものである。

### 参考文献

- (1) 谷塚光典：“信州大学における e ポートフォリオの運用と工夫—自己評価と相互評価による「目指す教師像」の構築を目指して—”，SYNAPSE, Vol.23, pp.12-15 (2013)
- (2) 谷塚光典, 東原義訓, 喜多敏博, 戸田真志, 鈴木克明：“教職実践演習に対応した教職 e ポートフォリオシステムの開発と評価”，教育システム情報学会研究報告, 29(6), pp.97-102 (2015)
- (3) 谷塚光典, 東原義訓, 喜多敏博, 戸田真志, 鈴木克明：“教職 e ポートフォリオを活用した観点別自己評価に見る学生の成長過程分析の試み”，日本教育工学会研究報告集, JSET16-2, pp.55-60 (2016)
- (4) 谷塚光典, 東原義訓, 喜多敏博, 戸田真志, 鈴木克明：“教職 e ポートフォリオを活用した自己総合評価に見る学生の成長過程分析の試み”，日本教育工学会第 32 回全国大会論文集, pp.895-896 (2016)
- (5) 谷塚光典, 東原義訓, 喜多敏博, 戸田真志, 鈴木克明：“教職 e ポートフォリオを活用した相互コメントに見る学生の成長過程分析の試み”，日本教育工学会研究報告集, JSET16-4, pp.155-158 (2016)
- (6) 谷塚光典, 東原義訓, 喜多敏博, 戸田真志, 鈴木克明：“教職 e ポートフォリオの活用による教育実習生の自己評価および相互コメントの効果”，日本教育工学会論文誌, 39(3), pp.235-248 (2015)
- (7) 谷塚光典, 東原義訓, 喜多敏博, 戸田真志, 鈴木克明：“教職志望学生が感じている教職 e ポートフォリオ活用の効果”，教育システム情報学会第 41 回全国大会論文集, pp.133-134 (2016)